

---

# 僕は……ここにいる

一羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕は……ここにいる

### 【著者名】

一羽

N7750D

### 【あらすじ】

数年振りに帰国した御影詞雪と常盤梗は飼い主と大型犬のように周囲から認識されている。彼らが帰つて来た事で今まで止まっていた全ての事が急速に動き出していく。

## プロローグ

忘れはしないよ……。あなた達が行つた全てを……。

忘れはしないよ……。あなた達が母を殺した事を絶対に忘れる事はしないよ……。

誓つたものは【罪】を【罪】だと知らしめる事だつた。

この時、子供はまだ4歳だつた……。

月日は流れ、真冬でもない春の足先には珍しく雪が降り積もつた空港には大勢の人が移動している中でソレはとても目立つている。

一人は漆黒のロングコートに黒のマフラーを巻いた淡い茶にの髪の中に煌めく髪の毛の束が印象に残る中性的な顔立ちの人とその人よりも10cm以上も高い濃紺のロングコートを纏つた灰色の髪の青年の身体が前に倒れたのかと思うと……彼の前を歩いていた小柄な子供に抱き着いた。というよりも抱きしめた。

「…………眠い」

「重く重く抱き着かないでよ……梗」

身体を退かせようと腕を使うが根本的に体格に差があることからびくともしない。

「はあ…………分かつた、早く帰ろうか?」

「うん……詞雪、大好きvv」

いきなり首に回されている腕に力が入り詞雪が梗の腕を何度も叩いて止めさせた。

物語りの始まりを告げるのは 御影詞雪と常盤梗が日本に降り立つたこの時から急激に動き出す事を知つていたのは、二人だけだったのかも知れない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7750d/>

---

僕は.....ここにいる

2010年12月8日12時08分発行